令和5年度予算のはなし

❹市民生活に身近な「市の仕事」ここにも予算が使われています

日常的な光景でどのくらいの予算が使われているかはわかりにくいものです。
身近なものとして実感しやすい、いくつかの例をご紹介します。

ごみ処理　ごみ、資源物の収集処理に要する経費

ごみの収集や焼却、資源物のリサイクルにかかる経費など

年間**139**億円

世帯数：762,705世帯
（令和5年1月1日現在）

1世帯あたりの負担額
年間
18,231円

子育て　保育所の運営に要する経費

公立保育所、民間保育所の運営費など

年間**598**億円

対象園児数:33,927人
（月平均）

園児1人あたりに必要な経費
年間
1,761,348円

このうち保護者からの負担
年間 196,920円

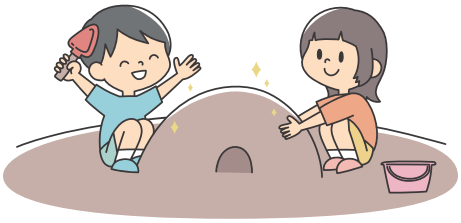
環境　公園の維持管理に要する経費

草刈や樹木の剪定にかかる経費など

年間**33**億円

公園管理面積：7,588,252㎡
（市民生活に身近な公園＝約2,500㎡の広さが目安）

2,500㎡あたりの経費
年間
1,089,921円



福祉　介護保険サービスに要する経費

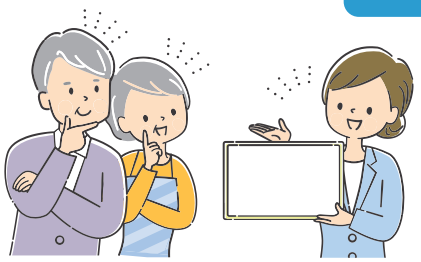
介護サービス・介護予防の実施にかかる費用など

年間**1,149**億円

要介護・要支援認定者数：
67,795人

対象者1人あたりに必要な経費
年間
1,694,793円

このうち65歳以上の保険料からの負担
年間347,865円



ことばの解説❸

川崎市総合計画（かわさきしそうごうけいかく）

川崎の良いところを活かしながら、もっと住みやすいまちをつくっていけるように、10年後、30年後を見据えて、まちづくりの道筋を示す計画です。市の予算も川崎市総合計画に掲げる施策を着実に推進できるように編成されています。 関連記事➡P.10～13